



Vol. 36 No. 2
2019. AUG



秋田県作業療法士会 印刷 川嶋印刷株式会社

発行 一般社団法人 秋田県作業療法士会 ホームページ <http://akita-ot.jpn.org/>
会長 高橋 敏弘
編集 一般社団法人 秋田県作業療法士会広報部
〒018-5421 秋田県鹿角市十和田大湯字湯ノ岱 16-2
大湯リハビリ温泉病院 作業療法室・児玉 達則
TEL 0186-37-3511 FAX 0186-37-3483
E-mail akita_ot_kouhou@akita-ot.jpn.org
事務局 〒010-0041 秋田県秋田市広面字屋敷田 25-2 セジュールエスト 105 号
TEL/FAX 018-837-0552
E-mail akita_ot@akita-ot.jpn.org

巻頭言 職業倫理の講師を担当して

作業療法推進公益事業部長 田村 大

秋田県作業療法士会の現職者共通研修の「職業倫理」の講師を担当しておそらく9年目になります。現職者共通研修という枠組みですので、主に新人の方を対象とした研修になっています。講義の内容としては、「医療における倫理とは」、「作業療法士の倫理綱領・作業療法士の職業倫理指針」、「ハラスメント」、「医療職に関する事件（情報漏洩・医療訴訟）」、「関連法規」、「作業療法事故防止マニュアル」、「倫理に関する事例検討」など字面からはとても硬い印象を受けますが、臨床実践を行う際には非常に重要な内容になります。

今回は2011年に作成した職業倫理の講義資料から昨年度までに追加された内容をお知らせ致します。「医療職に関する事件（訴訟の結果など）」、「ネット投稿による炎上」、「マタニティーハラスメント」、「ダイバーシティ・マネジメント」など社会の変化に応じて作業療法士が知るべき内容を追加しています。2015年には「新たに新会員になった方に向けて」というタイトルで職能団体、日本作業療法士協会についてどのような組織なのか、具体的な説明を追加しました。また秋田県作業療法士会との関係、役割についても改めて説明しています。

従来の働き方として、勤務しながら、職能団体（日本作業療法士協会、秋田県作業療法士会）に所属し、専門領域ごとの学術団体などに所属する場合が多かったと思いますが、近年では地域包括ケアシステムの構築に向けてリハビリテーション専門職の活用という社会からの要請があります。今後は、主たる勤務先の本務と並行しつつ各市町村レベルの様々な場面で、地域リハビリテーション活動に資する作業療法士が求められています。

日本作業療法協会の倫理綱領にも「作業療法士は、人々の健康を守るため、知識と良心を捧げる」、「作業療法士は、知識と技術に関して、つねに最高水準を保つ」、「作業療法士は、他の職種の人々を尊敬し、協力しあう」、「作業療法士は、公共の福祉に寄与する」とあります。秋田県では2016年から県内の三士会による秋田県リハビリテーション専門職協議会も設立され、地域リハビリテーション活動を推進しやすいシステム作りが始まっています。多くの県士会員が、地域リハビリテーション活動に資する作業療法士となり、職能団体の一員として、地域包括ケアシステムに貢献することが望

まれます。

現職者共通研修は一度受講された方も、再度受講することが可能です。新人の方だけではなく、適宜受講して情報をアップデートして頂きたいと思います。よろしくお願い致します。

特集① OT が関わる秋田県の運転支援の現状

秋田県立リハビリテーション・精神医療センター 作業療法士 伊藤 崇

最近、疾患の有無に関わらず高齢者が引き起こす重大事故が多く報道され、社会的に大きな問題、関心事となっています。作業療法においても ICF における「参加」に関する作業活動を視野に入れた際に、運転支援は回復期だけでなく急性期や地域における多くの作業療法士が興味をもつ領域になりつつあるのではないのでしょうか。特に公共交通機関の整備が不十分な秋田県では、生活を送る上で運転のニーズは高く、その相談・支援を経験する機会も多いのではないかと思います。私の職場でも年々運転支援に作業療法士が関わる機会が増えているのが現状です。このような社会の動向に合わせるように日本作業療法士協会では 2016 年 4 月特設委員会「運転と作業療法委員会」を設置し、各都道府県士会に対しても実態把握と作業療法士による運転支援の推進について協力が求められました。

今回は秋田県の運転支援の実態を調査した活動に加え、その後 2018 年から秋田県作業療法士会内に新たに設置しました「秋田県運転と作業療法委員会」の活動について紹介したいと思います。

秋田県内の実態を知る事から始めることとし、アンケート調査を実施したところ各病院が模索しながら活動をしている状況であり、その内容や施設間の連携についても不透明な状態でした。そこで、運転支援を行っている施設に声を掛け、意見交換会を開催しました。その結果、どの施設も不安や疑問に感じている事は共通しており、評価方法や基準の不統一、医師をはじめとする関係職種や公安委員会などの関連機関との連携、患者への説明が課題として挙がりました。

これらの意見を受け、2018 年 8 月秋田県作業療法士会内に県内でも運転支援を中心的に行っている 4 施設から委員を選出し「秋田県運転と作業療法委員会」を設置しました。活動の目的は県内の作業療法士が運転支援に関わる際の体制づくりであり、共通使用できる評価用紙作成と、それらを施設間・免許センター間での申し送りとして活用すること、免許センターとの連携をこれまで図ってきました。連携を進めるなかで免許センターからも「作業療法士からの評価用紙を統一してほしい」、「評価の内容について教えてほしい」と作業療法士のとの連携に前向きな要望が聞かれるようになり、今年度の 7 月には秋田県免許センターとの会議を実施し、前述した評価用紙の説明を行い、意見を頂きながら今後の運用に向け準備を進めています。このように、徐々に運転支援に関わる担当者間の顔合わせが進むことで今後のさらなる連携に繋がればと考えています。

県内の作業療法士が運転支援に関わる際に、



(運転免許センターとの会議の様子)

必要な対象者に適切な移動に関する支援を届けられるよう、県内に於ける運転支援が少しでも行いやすいものにする 것을目指して今後も活動を継続していきますので、皆様のご協力をよろしくお願い致します。

特集② 作業療法士が関わる自動車運転支援

秋田県立リハビリテーション・精神医療センター 作業療法士 井上 千絵美

当センターの作業療法室では患者様やご家族の希望がある場合に、主治医の指示の下、自動車運転再開に向けた評価・訓練を行っています。脳損傷の後遺症として、身体機能障害の他、注意力、記憶力、理解力、判断力などの認知機能が低下している場合があります。自動車運転では安全性の問題となることがあります。当センターでは、自動車運転評価・訓練の対象となる方の条件として、日常生活動作が自立し、屋外歩行が自立している、またはそれが見込まれる方で、本人や家族が自動車運転を希望する場合が条件となります。評価の流れとしては、担当作業療法士が検査について説明し、同意が得られたところで検査を行います。評価の内容は、認知機能検査、シミュレータ検査を行います。シミュレータ検査では機械を用いて視覚認知や反応速度検査の他、模擬運転を実施しています。模擬運転のコースは、路上で起こる可能性のある危険場面が設定されています。降雨や降雪、高速道路のコースもあります。それらの検査を通して、担当作業療法士は自動車運転評価票を作成し、主治医へ報告します。運転に必要な身体機能、状況判断や集中力など認知機能、模擬運転での総合的評価を記載しています。問題ない場合には必ず、免許センターに電話連絡してもらい、運転適性相談を受けてもらっています。病気の症状により、安全性の問題があると判断された場合には今後の運転について検討していただく場合があります。希望があれば、退院後に時期を置いて外来での再評価を行う方もいらっしゃいます。

秋田県は公共交通機関が十分ではなく、車が運転できないと生活ができないと言う方もたくさんいます。そのため自動車運転に対する意欲は高く、希望される方も多いと思います。時折、患者様本人は運転再開を希望されていても、ご家族はできれば辞めて欲しい、と意見が相違することがあります。自動車運転評価・訓練を進めるにあたっては、ご家族も含めて相談していくことが重要であり、運転支援に関わる私たち作業療法士には、医学的知識の他、道路交通法、自動車の改造に関することなど幅広い知識が必要であると日々感じています。



シリーズ「作業療法と生活考」NO. 71

「人はエラーをおかす動物である」

秋田大学医学部保健学科 金城 正治

前回のきりたんぼを読んで「やってしまった!!」と反省。

No. 70「運動よりも読書で健康になる!？」で後半部分がない原稿を送ってしまいました。ミスをしたのです。その状況を自分で分析したところ、文書の保存場所を2か所にしていたこと、丁度メールを送る時に電話がかかってきたこともエラーにつながったかもしれないと思いました。

(以下の内容は前回 No. 70 「運動よりも読書で健康になる!？」の続きです)

皆さんは、最近読書をしていますか。読書が大切だと分かっている、日常で仕事、育児や生活で疲れることも多いので、活字の文を読むことも少なくなってきました。そこで時々読書や本への親しみのハードルを下げる必要があります。そのひとつとして図鑑、絵本、漫画、ガイドブックなどを見るのもおすすめです。

図鑑は図書館に多くあります。眺めるだけでもいいですね。おもしろそうだからいいと思います。大人になってくると目的を持つ、これは知っているなど自分で壁を作りがちなのもあります。そして、楽しい、ときめきの要素も少なくなってきました。最近私が感動したのは、図鑑ではないですが秋田さきがけ新聞(2019.1.26)のなまはげの特集で、各地域のなまはげの仮面の写真でした。いつも見るなまはげでなく、地域に密着したなまはげの顔です。ユネスコの無形文化遺産にも登録されましたので、これらの仮面も大切にしたいですね。

絵本は子供向けですが、大人が読んでも感動はあります。子どもに読み聞かせをした本、自分が小さいときに読んだ本などの思い出とともに、その頃とまた違った感慨があります。

最近パソコンや携帯など画面から情報も多く、簡単に手に入りますが、ゆっくと眺めるには紙媒体がいいですね。疲れた時などはこれらを眺めてみませんか・・・読書をかたくるしく考えないで、気楽に色々な本を手にとってみましょう。(終わり)

さてここからが今回の本題です。私は送信ミスをおこしました。人はエラーをおかしやすい動物といわれています。そのエラーが大きな事故につながることもあります。みなさんは歩きスマホしていませんか？

最近のニュースで、八王子市の京王八王子駅近くの歩道にて、点字ブロック上を歩いていた全盲の男性が、歩行者とぶつかり、怪我はないようでしたが手にしていた白杖は壊れました。歩行者は歩きスマホをしていて、ぶつかった勢いで自分のスマホを落としたようです。そして「目が見えねえのに、一人で歩いてんじゃねえよ」と暴言を浴びせ、男性の足を蹴って立ち去っています。この男性の行動は非難されるべきものでもあります。この男性は、スマホを落とされた(?)被害者意識で、これらの行動として表われたかもしれません。また時間的に余裕がなく急いでいたのでしょうか。歩きスマホは常識程度に事故を起こしやすいということは知っていたと思うのですが・・・

人の弁別視野は10円の大きさの範囲で、周辺は視野に入っていますが弁別はできません。幼児や高齢者の場合は、これらがさらに狭くなってきます。歩きスマホは事故を発生しやすい状況におかれていることが感覚認知の面からも分かります。海外では歩きスマホは罰則という所もあります。歩きスマホはスリにも会いやすいです。またイヤホンで耳をふさいだ状態での歩行も危ないといわれています。現在歩きスマホの防止アプリ、音声化アプリもでています。

しかし、これらがあっても人は、注意が長続きしない。機器の構造を理解しようとしなない。マニュアルを読まない。時間的切迫感、情報過多による処理分析の不適切さ。小さなエラーがあっても原因を考えないなどの特性があります。そして、周りの事故は知識としては理解しますが、自分には起こらない、関係ないと思う傾向も事実です。

職場ではヒヤリハットの重要性は叫ばれますが、我々の日常ではいかがでしょうか。スマホなどの機器が便利になることは、大事なことです。そのリスクも考える必要もあります。道具は便利ですが間違えると凶器や事故の誘因にもなります。慎重な行動でも色々な条件や環境でエラーを起こすこともあります。エラーを発生させない状況をつくるのが大切です。小さなことでも記録する習慣は

一つの予防策になります。

反省だけではエラーは改善されません。事実を分析し、抑制できるスキルを具体的に実行・工夫することが必要です。作業療法場面、日常生活での小さなエラーは時々振りかえってください。小さなエラーが予防策になります。我々が臨床でよく遭遇する転倒でも、心身の評価、転倒リスクの評価や検査用紙でのチェックとともに、その人の生活動作、環境、行動特性や他職種の理解を知り、発生しにくい状況を作ってあげることも大事です。作業療法士はエラーに気づける、分析できる、防げる専門職だと思います。

「そして、バトンは渡された」

【著者】瀬尾 まいこ 【出版】文藝春秋
【価格】¥1600＋税 【ページ数】375 頁

書評

中通りハビリテーション病院 高橋 那苗

書評の依頼を受け、いつ以来感想文なんて書いてないだろうかと考える…高校の夏休みの課題以来か？最近も本は読むが、感想も持たず読了してしまうことが多い。これもいい機会だ。

さて、問題は何の本を読むかだ。読む本と言えば専らホラーばかりで、それはなんだか…塩梅が悪い。それに私は形から入るタイプなのだ。書評を書くにはその為の本が必要だと確信し、早速本屋に向かった。本は案外とすぐ決まった。

「そして、バトンは渡された」

決め手は本屋大賞受賞、そして帯に書かれた「個性きらめく感想文が書ける(中学生・高校生)」。

私はめっぽう評判に弱い。初めて入った飲食店では絶対に絶対に一番人気の物を食べる。今回もそう。帯が2つも掛かっている今の私にぴったりの謳い文句が書かれている。きらめく文が書けるかは別として。よし、決まり。

早速コーヒー店でケーキとコーヒーを頼み、それらを食べ終わり、あっそうだと読みだした。コミカルに進む物語に引き込まれて休憩もせずあっという間に読み終わってしまった。

主人公は17歳の森宮優子。優子が物心つく前に事故で亡くなった生みの母親と、実の父親である水戸秀平。2番目の母親の田中梨花と、お金持ち2番目の父親の泉ヶ原さん。そして、3番目の父親の森宮さん。苗字は4回変わり、家族の形態は7回も変わる。小説の書き出しはこうだ。

「困った。全然不幸ではないのだ。少しでも厄介なことや困難を抱えていればいいのだけど、適当なものは見当たらない。」

そう、優子の悩みは、悩みがないことだ。平凡な毎日の中で、なぜ優子は自分を不幸でないと言えるのかが分かってくる。親が次々と変わり、住む家が変わり、血の繋がりのない他人と暮らしてきた。その親の誰もが優子と言うバトンに、それぞれの無償の愛を注いでくれた。優子は自分の境遇を疎ましく思うこともあったが、何より自分というバトンを関わる皆が大切に愛してくれていることをよく知っていた。それが優子が不幸ではない理由だ。

「あなたみたいに親にたくさんの愛情を注がれている人はなかなかいない」

優子が高校の卒業式に担任の先生からもらった手紙からも、それは明らかだった。家族の形にも、愛し方の形にも、「こうあるべき」という決まりはなく、当然なのだということが、すんなりと心に沁

みてる。

好きなセリフがある。「本当に幸せなのは、誰かと共に喜びを紡いでいる時じゃない。自分の知らない大きな未来へと大きなバトンを渡す時だ。あの日決めた覚悟が、ここへ連れてきてくれた。」

私もきっと誰かにとってはバトンだ。今健やかで幸せに暮らせているのはきっと親の、家族の、ほかの誰かの愛に生かされている。

そして、話は飛躍するが、関わる患者の一人一人もまた家族からのバトンなのだと思う。家族が繋いだ思いを、次は私たちがランナーとして自分に与えられた距離に責任を持ち一生懸命走る。次のランナーにバトンを無事に届けるために、決して手から滑り落ちないように配慮して、精一杯の力と愛を込めてしっかりと握る。そしてバトンを大切に運び、次のランナーに自分の思いと共に託すのだ。そう思うと背筋を正そうと改めて思える。

やはり書評を書かせて頂いたのはよかった。こんなにも優しく、愛を感じる本に出会えたのだから。

職場紹介

医療法人 光智会 介護老人保健施設 大館園
松田貴信

皆さん、こんにちは。秋田犬・ハチ公やきりたんぼが有名な大館市にあります「医療法人 光智会 介護老人保健施設 大館園」をご紹介します。

当施設はニプロハチ公ドーム(旧:大館樹海ドーム)から車で3分程のところにあります(初めて来園される方には少々わかりにくい場所にあります。道中に看板も設置しており、以前よりは分かりやすくなったかと思います)。

当施設は、平成5年1月に設立し、今年で26年目を迎えました。入所定員150名・通所定員40名・ショートステイ・訪問リハビリの4つの支援事業を行っております。利用者の方々の主な疾患は、脳血管障害・整形疾患・認知症など様々です。

リハビリ科では現在理学療法士5名、作業療法士1名、言語聴覚士1名、助手1名が勤務しており、訓練として神経筋促通手技や筋力強化、ROMex、ストレッチ、基本動作・ADL訓練、歩行訓練等に取り組んでいます。利用者自身でリハビリに道具の準備ができる方には、積極的にやってもらえるように声掛けをしています。



また、今の時期（執筆 6・7 月）は山菜（竹の子など）の皮むきなど馴染みの作業のほか、季節感を感じられる作業活動（うちわ作りや夏祭り用の灯籠作り）などにも取り組んでもらい、利用者の皆さんも和気あいあいと楽しみながら行っております。

リハビリを通して、利用者の自立支援に貢献できるよう今後とも大館園一同で頑張っていきたいと思っております。

簡単ではありますが、以上で介護老人保健施設 大館園の紹介とさせていただきます。



研修会情報

「2019 年度 成人片麻痺における環境適応講習会<in 秋田>」

【日時】 2019 年 11 月 2 日(土) 9:00-18:00 11 月 3 日(日) 9:00-18:00 (2 日間で 1 コースです)

【定員】 100 名

【参加費】 15,000 円

【会場】 医療法人楽山会 大湯リハビリ温泉病院

【開催コース】 Aコース(平面適応)

【申し込み締切】 2019 年 10 月 18 日(金)

【申し込み】 URL https://www.sslforms.net/ssl/akita_kanteki/

または右記の QR コードよりお申し込みください。



「2019 年度 秋田県作業療法士会主催 現職者選択研修 精神障害領域の作業療法」

【日時】 令和元年 8 月 31 日 (土) 9:00～16:05

【会場】 秋田大学医学部保健学科 保健学科棟 第 1 講義室 (1 階)

【定員】 50 名

【参加費】 4,000 円

【申し込み締切】 令和元年 8 月 23 日(金)

【申し込み方法】 下記のホームページよりお申し込みください。

<http://akita-ot.jp/news2/info/2019-07-22.html>

広報部から

・研修会情報をお知らせしております。

余白を有効活用して、県内で開催される講習会・研修会情報を公開しております。院内での小さな勉強会でも構いません。「他の病院から参加者を募り、実りある研修にしたい」「情報交換をしてお互いの技術や知識を高めたい」その思いが秋田の作業療法を発展させます。みんなで秋田を盛り上げていきましょう。情報お待ちしております。宛先はこちら akita_ot_kouhou@akita-ot.jpn.org

編集後記

皆さん、暑いですね。体調は崩していませんか？自分は夏風邪を引きました。気温は暑いけど、自分は寒く感じるという状況で、調整が大変でした。夏風邪の原因の9割はウイルスで、有効な抗ウイルス薬は無いそうです。基本的には自然治癒力に任せるしかありません。症状は軽いものが多いようですが、長引かせないように油断せず、免疫力を上げてしっかり治すことが大切なようです。また、熱中症にも気を付けて、残り少ない夏を楽しみましょう（sugi）



(一社)日本義肢協会登録
東北 101 号

 株式会社
千秋義肢製作所

~~~~~  
義手・義足・装具・車椅子  
リハビリ用品  
~~~~~

秋田市新屋豊町 1-22

TEL 018-823-3380

FAX 018-862-5126

<http://www.sensyu-gishi.co.jp>

立位移動補助具 アクティーモ NR 
actimoNR

早期活動を促す
新しいリハビリテーション

脳卒中発症後早期の方でも、下肢・体幹を支持保持して安全に立位姿勢を保てる設計で、早期からの立位・移動リハビリテーションに最適です。



お問い合わせ先

酒井医療株式会社
www.sakaimed.co.jp

東北支店 盛岡営業所
(青森・秋田・岩手エリア担当)
TEL : 019-656-5336

東北支店 仙台営業所
(宮城・山形エリア担当)
TEL : 022-390-6840

仙台営業所 郡山オフィス
(福島エリア担当)
TEL : 024-927-0231